

# つくしだより



令和5年7月号

## 2023年度評議員会報告

都連理事補佐 池田 正

2023年6月23日(金)2023年度評議員会が、北沢タウンホール2階集会場で開催された。

### ◆定足数の確認

評議員の総数56名中、出席4名・欠席1名・委任状11名となり、会則規定の員数を充足しているため、会の成立が宣言された。

次に議長の選出に入り、文京家族会の前山栄江さんが選任された。

### ◆来賓のあいさつ

都議会側から内山厚生委員長(都民ファースト)をはじめ、自由民主党、都民ファーストの会、公明党、日本共産党、立憲民主党、生活者ネットワーク、自由を守る会、グリーンな東京の計9名と東京都側からは、福祉保健局佐藤課長、関係団体側からは、手をつなぐ育成会、自閉症協会、みんなねっと小幡事務局長の計4団体合わせて計13名から祝辞をいただいた。

### ◆議題の審議

・第一号議案「2022年度事業・

活動報告」 眞壁会長より、特に滝山病院への緊急要望書の提出や乱立するグループホームへの質的改善策の検討予算に大幅な積み増しがあった旨報告の後、原案通り承認可決された。

・第二号議案「2022年度決算報告」 原案通り承認可決された。

・第三号議案「2023年度事業・活動計画」 植松副会長より、特に強制入院制度の廃止をめざし、尽力したい。また2月報道の滝山病院での暴行事件を受け、都の改善命令を受け、病院側が設立した虐待防止委員会のメンバーの一員として、東京つくし会から参加することになった。都連として、「滝山病院院長あての声明文」や東京都に対し、「入院患者の退院支援」、「身体合併症の治療ができる公的病院の増」、「他の精神科病院の早期実態調査」を緊急要望した旨報告の後、原案通り承認可決された。

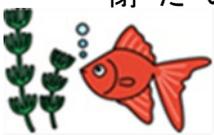
・第四号議案「2023年度予算」 都の会計事務の変更が急遽実施された。それに伴い、都の委託事業を展開する場合、すべて都連が立替払いを余儀なくされるため、勘定科目を修正した結果、15ページと16へ

ージを差し替えし、席上配布した旨説明があった。また今年の1月に篤志家のご厚意により、廉価な物件に事務所移転し、家賃の支出が大幅に削減できた。しかしながら一般会計上は、まだ支出超過にあり、単会の登録会員の増に引き続き協力願いたい旨報告の後、原案通り承認可決された。

・第五号議案「会則一部改正」 原案通り承認可決された。

・第六号議案「東京つくし会役員選任」 植松副会長より、当初の会則規定の役員 定員の下限の10名を切って9名となった現状から、今般、前項会則を改正した。都連は、東京都の精神保健福祉の担当窓口として、益々重要な団体として、認識されている。都連の業務をこなす上でも、最低限10名の役員は必要と考える。各単会の運営も大変と思うが、ぜひ、都連を助けてもらいたい旨、切実な説明があった後、原案通り承認可決された。

以上をもって、すべての議題の審議は終了したため、議長の退任をもって閉会となった。



## 都民精神保健福祉講演会報告

「長期入院の精神障がい者の

地域移行を考える」

都連理事 中住 孝典

日時 2023年6月23日14時〜16時

場所 北沢タウンホール

講師 日本社会事業大学 名誉教授

古屋 龍太氏

数多くの資料と統計データを示していただきながらの講演内容のため、限られた紙面ではまとめきれませんので、あらかじめご了承ください。講演内容の組み立てとして以下の流れで話が進みました。

- ①長期入院を生んできた日本の精神科医療の歴史的な背景
  - ②最近の統計から示す精神医療の姿
  - ③長期社会的入院（なぜ退院できないのか）
  - ④地域移行の取り組み
  - ⑤コロナの影響による地域移行支援の状況
  - ⑥病院から出て地域で暮らすために
- ・日本の精神医療は「世界一の精神科病院大国」と呼ばれるほど特異な存在であり、精神科病床数・平均入院期間・強制入院者数・死亡転帰率隔離・身体拘束などが諸外国に比べて突出して高い事
- ・海外の国際機関等から度々は正勧告を受けながら、今なお精神科病院内における人権侵

害事案が頻回に発生している事

この問題の背景には①日本の歴史的な隔離収容政策②欧米諸国のような脱施設化に舵を切らない精神医療政策③現行の精神保健福祉法による強制入院制度の放置④抜本的改革を阻害する経営的利害関係団体の存在⑤現状を「仕方ない」と追認する関係者の意識・姿勢があると、日本の歴史的な精神科医療の背景を通して指摘された。

精神障害者の地域移行がうたわれて久しいが遅々として進まない状況の中で、遅まきながら国はH29年に「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み」を立ち上げた。（以下、「にも包括」これは①精神障害の有無や程度に関わらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう医療、障害福祉、介護、住まい、社会参加（就労など）、地域の助け合い、普及啓発（教育など）が包括的に確保された精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指す必要があり、地域共生社会の実現に向かつていく上では欠かせないという事②それには計画的に地域基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の有無や程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、市町村ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を

通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、当事者・ピアサポーター、家族、居住支援関係者などとの重層的な連携による支援体制を構築していく事が必要と

うたわれている。「にも包括」の肝は「協議の場」。「にも包括」は自治体に任されているが行政主導の顔合わせ・意見表明の会合では無意味であり、ここに当事者、家族、家族会が主体的に声を出し意見を反映させていく事が大切と閉められた。ピアサポーター・家族会の存在が必要な社会資源として位置付けられ「にも包括」の中に組み込まれていく事が、いかにこれからの日本の精神医療の変革、病院から出て地域で暮らすために何が必要かを實現させていく上で欠かせない大きな要素になることを改めて実感する内容でした。質疑応答も18名からの多くの質問が寄せられ、滝山病院事件に関する事・退院促進に関する事（家族として何をすればよいのか）・ACTやアウトリーチに関する事・日本の精神科病院の今後など、時間がありませんでしたが幾つかを丁寧に答えていただきました。ありがとうございました。

なお最後に申し遅れましたが参加数70人という会場が入りきれないくらいの盛況ぶりでした。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

## みんなねつと定期総会報告

都連副会長 齋田 英夫

日時 6月16日(金) 12時半〜17時

場所 TH会議室 (新宿駅南口)

参加者 45 都道府県代議員

最初に岡田理事長の挨拶の後、議長・副議長を選出し議事が始まりました。

まず、小幡事務局長から2022年度活動報告がありました。

(1)「みんなねつと提言」を発表して、精神保健医療福祉改革を広く訴えました。今回みんなねつと誌の臨時増刊号として配布いたしました。

(2)WEB会員の募集をしたり、みんなねつとサロンを配信したりして、オンラインによる活動を展開しました。また子ども、配偶者等様々な立場の人の会員増を目指します。

(3)二億円という高額寄付を受け、「月刊みんなねつと発行」と「全国大会・ブロック研修大会」等へ毎年一千万円拠出するとして、20年間の活動を支えることができる見通しが立ちました。

(4)オンラインの活用により、各ブロックでの代表者会議や交流会が容易にやりやすくなりました。

(5)会員数の経年比較を見てみると2012年には12881人だったものが、202

2年には9779人と減ってきています。一方、「みんなねつとサロン」は、2020年8月に発足してから、現在では775名になっています。

その後決算報告・監査報告が無事終わって、次年度の事業計画の審議に移りました。

・「みんなねつと提言」の実現を目指す

・公共交通運賃の割引制度の実現・重度心身障害者医療費助成制度の適用推進・ピアサポート事業等々と予算案を承認して総会は終了しました。

\*最後に注意事項です。第三種郵便物でみんなねつと誌を送るときに会報等その他の私信を同封しないようにしてください。

### 青梅市ほっとスマイル家族会を訪問して

都連副会長 植松 和光

創立から10年のまだ新しいほっとスマイル家族会を5月27日(土)に訪問しました。

立川から約20分、青梅線の車窓を眺めながら東青梅駅で下車、駅前はとても静かな街でした。会場は青梅市立福祉センターの大きな会議室でした。当日は50名を超える方が参加されていました。

参加者は家族、当事者、支援機関、病院のワーカーなど多彩な顔触れでした。10年たった「青梅ほっとスマイル」家族会の素晴らしさに感動しました。家族会が地域に定着し、

大きな役割を果たしていると実感しました。

今回は、「家族会のこれから」をテーマに1時間ほど話をさせていただきました。

●1番目は、精神障がい者の家族である私が直面してきた困難なことを、いくつかの事例を交えながら話しました。そして、子どもの病気を認め親がどう付き合っていくか、どこで腹をくくり覚悟を決めるか。

●2番目は、家族会の課題として、家族の高齢化と会員の減少問題、役員の後継者づくり。

●3番目は、親なき後のことについて親が何をするのか、何をしたらいいのかについても経験話を話しました。

●4番目は、若い家族の会員促進についてです。若い方は、紙から情報を得ることはあまりなく、殆どの方が、インターネットなどで調べます。そのためには、家族会のホームページの作成なども必要。それから、家族交流会なども平日から土曜日や日曜日に実施し参加しやすくすることなども考えていくこと。

●5番目は、家族や当事者にとって今、何が必要かをまとめ市役所等に要望すること。例えば、グループホーム充実、福祉手当の支給など住居や経済的なこと。

青梅市ほっとスマイルの皆様、有難うございました。益々のご活躍を期待しています。

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために皆様に役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月 25 日までに、つくし会事務所に、メール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) か FAX (03-3304-11008) でお寄せください。

**【情報提供】首都圏で初めて【京急】(京浜急行電鉄) が 10 月 1 日より精神障害者 1 級への運賃割引を実施**

京急が、10 月 1 日から京急電鉄を利用する精神障害者手帳 1 級の所持者が同伴者と一緒に乗車した場合、利用運賃を 5 割引きにすると発表しました。首都圏では初めての実施です。

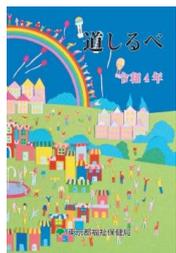
南海電鉄も、同じく 10 月 1 日より精神障害者に対する運賃割引を実施すると発表しました。南海電鉄の場合は 2 級所持者も対象になっています。

大手私鉄としては、前から実施している西鉄や近鉄に続いての 4 社目の割引の実施です。

割引の内容については各社(とりわけ近鉄が)不十分な点がありますが、一步一步の前進です。

更なる拡大を目指して一層の運動を展開しましょう。

**令和 5 年度版道しるべができました！！**



東京都発行の総合情報誌「道しるべ」の配布をご希望の方は、東京つくし会の HP をご覧の上、ご請求ください。

本体は無料で、郵送料のみご負担いただいております。本年度より東京つくし会のホームページでも閲覧いただけるようになりました！

★講演会のお知らせ★  
 ○「みんなでやろう家族 S S T」  
 日時 8月5日(土)午後1時半～4時  
 講師 高森 信子氏  
 会場 二幸産業・N S P 健康福祉プラザ  
 5階 視聴覚室 申込不要  
 主催 サンクラブ多摩 ☎042-371-3380  
 ○「統合失調症の正しい知識と家族の当事者への対応の仕方」  
 講師 国立精神・神経医療研究センター病院  
 看護師 宮崎 真理子氏  
 日時 8月19日(土)午後1時半～4時  
 会場 小平市福祉会館小ホール 申込不要  
 主催 小平市けやきの会 ☎042-343-4559  
 ○「精神疾患の回復と家族の役割」  
 日時 9月9日(土)午後2時～4時半  
 講師 精神科医 大泉病院社会医療部長 山澤 涼子氏 定員50名 先着順 申込不要  
 会場 小金井市 市民会館「萌え木ホール」  
 主催 小金井市あじさい会 ☎042-388-3729

**編集後記**

滝山病院事件について思うこと

2月にこの事件が報道されてから、4カ月ほどが経ちましたが、この事件に対する、怒りはまだまだ収まりません。何ででしょうか。私は、人が人を差別し人権を全く無視しているからだと思います。何故、精神障がい者だから虐待していいんですか。滝山病院の看護師は平然とごく当たり前のよう、身動きのとれない患者の頭や頬を殴ったりしているのです。

患者さんはどれほど辛かったことでしょうか。辛くても何にもできない、抵抗もできない、我慢をしなければならぬ。こんなことが許されるはずがないですよ。

日本の精神科医療の水準は最低だと良く言われていますが、本来、安心して治療を受けられるはずの精神科病院がこの実態でいいのでしょうか。

それから、今回の特徴の一つは、滝山病院がとても閉鎖的なことです。全く地域との交流がなく、外部の人がほとんど入ることができず、外来診療もなかったために、一切チェックが働かなかったことのようにです。都の定期監査は事前に伝えてあるため、異常には一切気が付かない。まだ、いっぱい書きたいことがありますけど、この辺でやめさせていただきます。  
 都連副会長 植松 和光

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。